

H30 年度 医療介護連携会議の取り組み

○共通目標

心豊かに最期まで暮らせる わが町を目指して、医療と介護の提供体制を整える

○H30 年度の活動方針

- ①訪問診療の効果・効率的な提供体制の構築
- ②介護予防・重度化予防の推進

○H30 年度部会

- ①訪問診療・看護・介護連携部会（関係 13 団体 25 名）
- ②病院（地域包括ケア病棟）と訪問診療連携部会（関係 9 団体 19 名）
- ③認知症の人の医療サービス支援部会（関係 13 団体 25 名）
- ④介護予防部会（関係 11 団体 21 名）
- ⑤在宅医療・介護連携支援センターのあり方部会（関係 9 団体 18 名）
- ⑥れんけい手帳検証部会（関係 20 団体 31 名）

○介護予防部会（H30 年 6 月 7 日、H30 年 10 月 11 日）

目的：生活機能障害を引き起こす運動器の機能低下予防について、切れ目のない対応策を提案すること。

方策：医療・介護関係者が「いきいき百歳体操」の推進に効果的に協力することを目指す。

結果：医療・介護関係者から、患者・利用者に対して、「いきいき百歳体操」を積極的に紹介・提案する（退院後の活動の提案に・ケアプランに・リハサービス修了の目標に・etc）ためのパンフレットと説明用資料を作製する。

「いきいき百歳体操」の活動の目的・効果について研修会を開催して啓発を行う（2/1 研修会開催）

○れんけい手帳検証部会（H30 年 12 月 12 日）

目的：れんけい手帳の運用状況、内容について継続した検証を行う。

結果：運用状況について、利用者数が少ない為実際に手帳を活用する場面に接することが少ないとの意見が多数を占めた。一方で活用例として緊急入院時に病院との情報共有に有効であったなど「れんけい手帳」が効果的に活用された事例もあった。

退院時の交付方法などを関連団体と調整を行う他、対象者の見直しなどを含め、今後も継続して運用状況について検討を行っていく。

（会議資料より抜粋）